

令和七年度（1A） 国語

※字数制限があるものに関しては、全て句読点等も一字に含みます。

一次の【文章Ⅰ】および【文章Ⅱ】を読み、後の問一～問十に答えなさい。

【文章Ⅰ】

何かを学んでいこうとするとき、「好き」という感覚ほど強い味方はない。一方、「嫌い」という感覚は、学びにブレーキをかける。好きなことはいくらでもできるが、嫌いなことはやりたくない、と。加えて、好きや嫌いという感覚は個人的な感覚だから、誰かに「私はリンゴが好きだ」と言っただけでも、「それは君が好きなだけ、僕はバナナが好きだ」と返される場合が少なくない。好き嫌いは何かをブロックしてひとりよがりな世界を生み出すことがあるのである。

しかし、内面でわき起る好きや嫌いは、大切にしなければならぬ。それが人生をつくっていくのだから。だが何かを本当に学ぶためには、好き嫌いの感覚を、さしあたり停止して、どうして好きなのか、どうして嫌いなのかを正視しなければならない。矛盾していると思うだろう。しかし、数学の勉強が嫌いなら、どこが好きでどこが嫌いなのかを考えてみてほしい。考えることが、単なる好きや嫌いの感覚から距離を置くことを教えてくれるから。それが学ぶことの第一歩。今のうちにその術を身につけてほしい。①好きだから、嫌いだからで終わってはいけない。

学ぶためのもう一つのポイントは、全体を見ること。それと同時にどこか一点を見なければならぬ。全体だけを見ていても絶対に自分のものにはならない。これも「X」していると思うだろう。だがスポーツを想像すればわかりやすい。スポーツは単に肉体の問題ではない。例えば野球では、筋力を②鍛えさえすればホームランを打てるわけではない。筋力だけでなく、身体全体を考え、何かポイントをつかむことでバッターとして成長できる。人はそれぞれ「癖」を持っているものだが、それを捨て、自分なりのポイントをつかむことが基本だ。

これは思考の基本でもある。人間がものを考えるとき、※1公理から出発することはありえない。全体の※2コンテクストをば

んやりと視野に入れながら、その中で手がかりを見つけて考えを進める。A⇨B、B⇨C、C⇨Aといったような論理は、考え抜いたあとで、他者に説明するために組み立てる表現だ。事件現場に立つ[※]シャーロック・ホームズを想像してほしい。彼は、現場全体を見ながら、頭の中ではそれまでに集めた証拠品のイメージや証言を繰り返し返していることだろう。全体を見ながら、どこかに特異点を見いだそうとしているのである。さまざまな要素があり、それらがどういう関係にあるのか、そしてそれらの関係がどう全体をかたちづけているのかを見ていくのである。

②こうした思考は、数学でも国語でも、研究でもビジネスの現場でも変わらない。「文科系と理科系ではアタマの使い方が異なる」などと思い込んではいならない。原則は同じなのだ。文章全体を見ていながら、どこかに必ず文章全体にかかわるひっかかりがあるはずだ。それをつかむ。そのポイントを自分なりに展開すること人間はものを考え始めることができる。学校の勉強には正解が用意されている。皆さんが誤った答案を書けば、間違いを指摘される。だが皆さんに課されているのは、正解を知ることではなく、頭の働かせ方を学ぶことだ。この学びは、たんに知識を⑥タクワ^⑥えることではなく、自分自身を変えていくことにほかならない。全体のコンテキストがあり、その特異点をつかんで全体をもう一回つくり直す。これは③自分の世界を自分でつくり直していく力でもある。

(小林康夫「学ぶことの根拠」(『何のために「学ぶ」のか(中学生からの大学講義)』)

【文章Ⅱ】

勉強に苦勞する。何のために苦勞するのか？ いい大学に入るため？ そうじゃない。大学入試などで人間の価値は決まらない。⑥カンジン^⑥なのは、大学に入ってから後のことだ。大学で何を勉強するか。社会に出て何を身につけるか。いい大学に入って、いい会社就職すれば将来は保証される——もう、そんな時代ではない。一生、勉強し続けなければ、先はないと思ったほうがいい。

I、がんばって志望校に合格することは大切だ。でも、それがゴールだとはくれぐれも思わないでほしい。クリアすべき第一関門でしかない。だから逆にいえば、その程度のことはとりあえずクリアしてほしい。

もう一つ、ぜひ言っておきたいのは、君たちの世代で「文系」「理系」という言葉を死語にしてほしい。僕は理学部を出た後に法学部に学士入学した。だから文系も理系も両方やった。大学四年間は、文系・理系どちらかを選んで勉強したってかまわない。でもそれは、たった四年間の話だ。

Ⅱ、最先端の学問であればあるほど、④文系・理系なんて分け隔ては意味がない。脳科学を研究するには音楽のこともわからなければいけないし、哲学だつてもはや脳科学を無視して研究することはできないだろう。

この世界を理解するのに文系も理系もない。そんなのは、④便宜的に設けられた壁にすぎない。Ⅲ、大学を卒業して一〇年もたつて、「私は文系ですから」「理系ですから」なんて言い訳しているのは、※₄ちゃんちゃらおかしい。

学ぶことは苦勞であると同時に喜びでもある。そして学ぶ喜びは、脳が感じる喜びの中で、最も深い喜びなのだ。だから※₅ドーパミンがたくさん出る。

脳のうまい使い方とは、できるだけドーパミンを出すこと。どうすればいいか。自分にとって無理めの課題を設定して、それをクリアすること。Ⅰ Y 一感持たない。模試の判定や偏差値は、他人と比較するための物差しではなく、自分の進歩の目安として使う。そして情熱を持って苦勞する。

Ⅳ 忘れなければ、未来は明るい。今この国に足りないもの、それは理想と情熱だ。だから⑥キギを乗り越えられない。この国にはしよせん、※₆オバマ大統領みたいな人は出ない、と諦めてはいないだろうか。⑤そんなことはない。

理想と情熱さえあれば、政治家だろうが、企業家だろうが、科学者だろうが、小説家だろうが、素晴らしい人物に絶対なれる。理想も情熱もなくしてしまった、だらしのない大人たちに任せておくことはない。ぜひ、はちきれんばかりの理想と情熱をもって、君たちがこれからの世界を切り開いてほしい。

（茂木健一郎「脳の上手な使い方」（『何のために「学ぶ」のか（中学生からの大学講義）』）

(※語注)

1 公理……一般に通ずる道理。

2 コンテキスト……文脈、背景、状況、前後関係などの意味を持つ言葉。

3 シャーロック・ホームズ……シャーロック・ホームズシリーズ(小説)の主人公。探偵。

4 ちゃんちゃらおかしい……問題にならないほどばからしい。

5 ドーパミン……神経伝達物質の一つ。快く感じる原因となる脳内報酬系の活性化において中心的な役割を果たしている。

6 オバマ大統領……アメリカ合衆国第四十四代大統領。

問一 傍線部①～⑤の漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。

問二 【文章Ⅱ】中の空欄Ⅰ Ⅳ に当てはまる言葉として適当なものを次の(ア)～(オ)よりそれぞれ一つ選び、記号に丸をつけなさい。ただし、同じ記号を二度用いてはいけない。

- (ア) それさえ (イ) むしろ (ウ) まるで (エ) ましてや (オ) もちろん

問三 傍線部①「好きだから、嫌いだからで終わってはいけない」とあるが、その理由を説明している一文を【文章Ⅰ】から抜き出し、最初の五字を答えなさい。

問四 空欄【 X 】【 Y 】について、後の問いに答えなさい。

(1) 【 X 】【 Y 】にあてはまる語を【文章Ⅰ】から二字で抜き出しなさい。

(2) 【 Y 】にあてはまる語として適当なものを次の (ア) ～ (エ) より一つ選び、記号に丸をつけなさい。

(ア) 期待 (イ) 孤独 (ウ) 劣等 (エ) 達成

問五 傍線部②「こうした思考」の説明として適当なものを次の (ア) ～ (エ) より一つ選び、記号に丸をつけなさい。

(ア) さまざまな要素、それらの関係性がどう全体に繋がっているかを他者と共に検証をすることで、思考が構築されていくということ。

(イ) 全体のコンテキストを把握し、それを基にすることのみ、さまざまな要素、関係性を理解することができるということ。

(ウ) $A \parallel B$ 、 $B \parallel C$ 、 $C \parallel A$ といったような理論で説明することで、他者が理解しやすくなり、互いに全体像が明確になるということ。

(エ) 人間がものを考えるときは、初めから道理に当てはめるのではなく、さまざまな要素、関係性から全体を形成していくということ。

問六 傍線部③「自分の世界を自分でつくり直していく力」とあるが、そのために必要なものを【文章Ⅰ】から十一字で抜き出さなさい。

問七 傍線部④「文系・理系なんて分け隔ては意味がない」とあるが、その理由を【文章Ⅰ】から五字で抜き出さなさい。

問八 傍線部⑤「そんなことはない」とあるが、その理由として適当なものを次の（ア）～（エ）より一つ選び、記号に丸をつけなさい。

- （ア）他人と比較するのではなく、理想と情熱をもって学ぶことで、未来を切り開く人物になれると考えているから。
- （イ）自分にとって無理そうな課題を設定し、それをクリアすることを繰り返し、脳が成長すると考えているから。
- （ウ）ドーパミンを出すことで脳を活性化し、それによって新たな素晴らしい人物を輩出することができると考えているから。

（エ）理想と情熱を諦めることなく持つことで、脳が幸せを感じ、苦勞を惜しまない人材が多くなると考えているから。

問九 次の①～④の内容は【文章Ⅰ】【文章Ⅱ】の主張にあてはまるかどうか。適当な組み合わせを、次の（ア）～（エ）よりそれぞれ一つ選び、記号に丸をつけなさい。ただし、同じ記号を二度用いてはいけない。

- ① 学校での学びは正解が用意されているが、ポイントは正解を知ることではない。
- ② 学ぶことは、苦勞することであると同時に喜びを感じるものでもある。
- ③ 「好き・嫌い」という感覚は、理想と情熱に繋がり、自分の世界を広げていく。
- ④ 学ぶことに対して、文系・理系というスタンスを持つ必要はない。

- | | |
|---------------------|-----------------------|
| （ア）【文章Ⅰ・Ⅱ】の両方にあてはまる | （イ）【文章Ⅰ】にのみあてはまる |
| （ウ）【文章Ⅱ】にのみあてはまる | （エ）【文章Ⅰ・Ⅱ】の両方にあてはまらない |

問十 次の会話文は、【文章Ⅰ】【文章Ⅱ】を読んだ生徒が、その文章について話し合っている場面である。会話文中の（ ）に最もあてはまる表現を【文章Ⅰ】【文章Ⅱ】から十字で抜き出さない。

生徒A―【文章Ⅰ】と【文章Ⅱ】は、両方とも学ぶことについて言及されているけど、それぞれ観点が違っているね。

生徒B―確かにそうだね。【文章Ⅰ】では、学ぶことは自分なりのポイントをつかむことが大切とだと述べられているけど、一方で【文章Ⅱ】では、学ぶことは喜びでもあると述べられているよ。

生徒C―さまざまな考え方はあるけど、Aさんはどの考え方に共感した？

生徒A―私は【文章Ⅰ】の考え方に関心を持ったよ。私たちに求められているのは（ ）ことであって、学校の勉強のようにならず正解を知ることだけでなく、知識を身につけるだけでもないという考え方に共感したよ。

二 次の文章を読み、後の問一～問九に答えなさい。

これも今は昔、^{※1}絵仏師良秀といふありけり。家の隣より火出で来て、風おしおほひて責めければ、逃げ出でて、大路へ出でにけり。人の書かする仏もおはしけり。また衣着ぬ妻子なども、Aさながら内にありけり。①それも知らず、ただ逃げ出でたるを^{※2}事にして、向ひのつらに立てり。見れば、すでに我が家に移りて、煙、炎くゆりけるまで、おほかた向ひのつらに立ちて眺めければ、あきましき事とて、人ども来とぶらひけれど、騒がず。「いかに」と人言ひければ、向ひに立ちて、家の焼くるを見て、うちうなづきて、時々笑ひけり。「あはれ、②しつる^{※3}せうとくかな。」^{※4}年ごろはわろく書きけるものかな」と言ふ時に、とぶらひに來たる者ども、「こはいかに、かくては立ち給へるぞ。Bあきましき事かな。^{※5}物の憑^つき給へるか」と言ひければ、「^{※6}何条物の憑^{なで}くべきぞ。年ごろ^{※7}不動尊の火焰^{くわえん}を悪しく書きけるなり。今見れば、③かうこそ燃えけれど、心得つるなり。これこそ④せうとくよ。」⑤この道を立てて世にあらんには、^{※8}仏だによく書き奉らば、百千の家も出で来なん。

※⁹ わたうたちこそ、させる能もおはせねば、
秀が※¹⁰「よぢり不動とて、今に人々めであへり。」
※¹⁰ 物をも惜み給へ」と言ひて、⑥あざ笑ひてこそ立てりけれ。その後、良

〔宇治拾遺物語〕絵仏師良秀家を焼くるを見てよろこぶ事〕

(※語注)

1 絵仏師……仏像を書くことを職業にすること。

2 事にして……よいことにして。

3 せうとく……もうけもの。

4 年ごろ……今まで。これまで。長年。

5 物の憑き給へるか……怪しげなものでものり移りなされたか。

6 何条……どうして。

7 不動尊……不動明王。

8 仏だによく書き奉らば……仏さえ立派に書いて差し上げたならば。

9 わたうたち……二人称代名詞。お前、お前ら。

10 物をも惜み給へ……物を惜しみなさるのだ。

11 よぢり不動……火災の曲線が写實的に描けている不動尊。

問一 二重傍線部A「さながら」、B「あさましき」の解釈として適当なものを次の(ア)～(エ)より一つ選び、それぞれ記号に丸をつけなさい。

- | | | | | |
|----------|----------|-----------|-----------|----------|
| A「さながら」 | (ア) まるで | (イ) やはり | (ウ) どうして | (エ) そのまま |
| B「あさましき」 | (ア) あきれる | (イ) 素晴らしい | (ウ) 腹立たしい | (エ) 偉そうな |

問二 傍線部①「それ」が指す内容を説明した次の文章の空欄Ⅰ、Ⅱに当てはまる語を本文から抜き出して答えなさい。なお、Ⅰは七字、Ⅱは五字で答えること。

ⅠやⅡがまだ家の中にいること。

問三 傍線部②「しつるせうとくかな」は誰の発言か。適当なものを次の(ア)～(エ)より一つ選び、記号に丸をつけなさい。

- | | | | |
|-----------------|-------|--------|--------|
| (ア) とぶらひに来たる者ども | (イ) 仏 | (ウ) 良秀 | (エ) 妻子 |
|-----------------|-------|--------|--------|

問四 傍線部③「かうこそ燃えけれど、心得つるなり」とあるが、燃え方が分かった良秀はどのような行動をとったか。本文中から十五字以内で抜き出し、最初の五字を答えなさい。

問五 傍線部④「せうとく」を現代仮名遣いに直し、全てひらがなで答えなさい。

問六 傍線部⑤「この道」とは何を指しているか。本文中から三字で抜き出して答えなさい。

問七 傍線部⑥「あざ笑ひてこそ立てりけれ」について、後の問いに答えなさい。

(1) そのような行動をとった理由として適当なものを次の(ア)～(エ)より一つ選び、記号に丸をつけなさい。

- (ア) 火事によってすべてを失った良秀の発言が、あまりに常識から外れていたから。
- (イ) 自分の芸術観を理解できない凡人に対して、皮肉な態度を取りたかったから。
- (ウ) 周りの人にばかにされないよう虚勢を張ることで、自尊心を保ちたかったから。
- (エ) 失った物を惜しむ考え方は仏道にそぐわないため、平気な様子を示したかったから。

(2) 「あざ笑ひてこそ立てりけれ」の文末は、「係り結び」によって変化している。このように文末変化が認められるものとして、適当なものを次の(ア)～(エ)より一つ選び、記号に丸をつけなさい。

- (ア) 多く候ふなる、ある限り見せ給へ。
- (イ) かくいちはやきみやびをなむしける。
- (ウ) かなしくて、人知れずうち泣かれぬ。
- (エ) 初心の人、二つの矢を持つことなかれ。

問八 この文章は、鎌倉時代に成立した説話集の『宇治拾遺物語』におきめられている。同じジャンルの作品を次の(ア)ゝ(エ)より一つ選び、記号に丸をつけなさい。

- (ア) 枕草子 (イ) 今昔物語集 (ウ) 古今和歌集 (エ) 徒然草

問九 本文の「絵仏師良秀家を焼くるを見てよろこぶ事」を基にした作品に、芥川龍之介の『地獄変』がある。芥川龍之介の作品でないものを(ア)ゝ(エ)より一つ選び、記号に丸をつけなさい。

- (ア) 羅生門 (イ) 鼻 (ウ) こころ (エ) 杜子春

三次の漢字、慣用表現、四字熟語に関する後の問一ゝ問三に答えなさい。

問一 ①ゝ⑤の傍線部のカタカナにあてはまる漢字を、次の(ア)ゝ(ウ)よりそれぞれ一つ選び、記号に丸をつけなさい。

① 国民の権利をオカすことは許されない。

(ア) 犯 (イ) 冒 (ウ) 侵

② 父も母も、役場にツトめられている。

(ア) 勤 (イ) 務 (ウ) 努

③ 鏡にウツる姿を見て、心を弾ませる。

(ア) 写 (イ) 映 (ウ) 移

④ 国家の安全ホシヨウ政策を定め、有事に備える。

(ア) 保証 (イ) 保障 (ウ) 補償

⑤ 専攻する学問をツイキュウし、知見を深める。

(ア) 追求 (イ) 追究 (ウ) 追及

問二 ①～⑤の()にあてはまる漢字一字を入れ慣用表現を完成させなさい。

① 私たちは小さい頃から仲が良く()が置けない間柄だ。

② 彼の活躍は飛ぶ()を落とす勢いがある。

③ すずめの()ほどのお小遣いでは、欲しいものも買えない。

④ 友達にも断られて、取り付く()もない。

⑤ 長年の苦労がついに()を結び、目標を達成した。

問三 ()には、二つとも漢数字が入る。あてはまる漢数字を、一字ずつ入れ、四字熟語を完成させなさい。(完全解答)

① () 日 () 秋

② () 人 () 色

③ () 載 () 遇

⑤ 海 ((客 ((来
((山 ((

問題は以上です。

模範解答

国					語									
問題番号		答の欄		採点欄	問題番号		答の欄		採点欄					
一	問一	㉐	きた	2	問二	I	人	の	書	か	す	2		
		㉑	蓄	2			る	仏						
		㉒	肝心	2		II	衣	着	ぬ	妻	子	2		
		㉓	べんぎてき	2										
		㉔	危機	2	問三	ア イ ウ エ					2			
	問二	I	ア イ ウ エ オ	2	二	問四	最初	う	ち	う	な	ず	2	
		II	ア イ ウ エ オ	2		問五	しょうとく					2		
		III	ア イ ウ エ オ	2		問六	絵	仏	師			2		
		IV	ア イ ウ エ オ	2		問七	(1)	ア イ ウ エ	2					
	問三	最初	考	え	る		こ	と	3	(2)	ア イ ウ エ	2		
	問四	(1)	矛	盾			2	問八	ア イ ウ エ					2
		(2)	ア イ ウ ユ	2	問九	ア イ ウ エ					2			
	問五	ア イ ウ ユ			2	問一	①	ア イ ウ				2		
	問六	頭	の	働	か		せ	②	ア	イ	ウ	2		
		方	を	学	ぶ		こ	③	ア イ ウ	2				
		と					④	ア イ ウ	2					
	問七	原 則 は 同 じ			3		⑤	ア イ ウ	2					
	問八	ア イ ウ エ			2	問二	①	気				2		
	問九	①	ア イ ウ エ	2	②		鳥				2			
		②	ア イ ウ エ	2	③		涙				2			
		③	ア イ ウ ユ	2	④		島				2			
		④	ア イ ウ エ	2	⑤		実				2			
	問十	自	分	自	身	を	問三	①	一	日	千	秋	2	
		変	え	て	い	く		②	十	人	十	色	2	
	二	問一	A	ア イ ウ ユ	2	③		千	載	一	遇	2		
			B	ア イ ウ エ	2	④		千	客	万	来	2		
						⑤		海	千	山	千	2		

50

50

受験 番号		名前		得点	
----------	--	----	--	----	--